

# 続 複数の知的財産法による保護の交錯

～実務上の課題を中心として～

〔目次〕

●ご挨拶	日本弁理士会中央知的財産研究所所長 筒井 大和	i
●序文	主任研究員 土肥 一史	iii
●研究部会 研究員		iv
<hr/>		
・周知性の獲得と商標登録の先後関係	中村 仁	1
・不正競争防止法 2 条 1 項 3 号による保護と意匠法による保護 — デッド・コピー規制を非登録型デザイン保護制度として みた場合の可能性と課題 —	五味 飛鳥	6
・商標法, 意匠法及び不正競争防止法における同一性と類似性	宮脇 正晴	15
・企業内の創作活動と成果の帰属等に関する知的財産法の交錯 — 職務発明と工業デザイン創作に焦点をあわせて —	外川 英明	21
・商標法, 意匠法及び不競法における混同	末吉 互	36
・キャラクターの法的保護	上野 達弘	47
・商品形態の標識上の保護	横山 久芳	60
・商標的使用と意匠的使用	足立 勝	84
・応用美術の保護 — TPIPP TRAPP 事件控訴審判決をふまえて —	金子 敏哉	101
・商標法の下における著名人の名称の保護 — 識別力の問題を中心に —	大西 育子	116
・音の商標の識別性, 類似性と本質的特徴	土肥 一史	128
<hr/>		
●事項索引		139
●判例索引		140
●アンケート		143